

平本（徹）委員（広志会）

令和2年3月12日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）広島叡智学園建設工事に係る事業費について

広島叡智学園建設工事に係る事業費について、約30億円の金額が増額しており、事業費の全体像も合わせて審議することなく、その拙速さが増額をもたらした一つの要因ではなかったのかと考える。

そこで、なぜ、ここまで広島叡智学園の開校を急ぐ必要があったのか、また、建設工事費がなぜこのように上昇したのか、その理由についても併せて教育長に伺う。

（答）

グローバル化の進展などにより、様々な課題が複雑化・高度化する中、全県的な「学びの変革」の実現を図っていくことは、喫緊の課題であると認識しております。

そのため、県全体の取組を牽引する学校である広島叡智学園につきましては、出来るだけ早期の開校に向けて、これまで取り組んできたところでございます。

御指摘のプロポーザル時の想定額につきましては、過去の県立学校の改築工事の単価を基に積算した想定額であり、建築工事費が増額となった要因といたしましては、

- ・ 東京オリンピック開催等に伴う建築単価の上昇
- ・ 地盤調査の結果を踏まえた基礎工法の変更

などによるものでございます。

また、建築工事等に一般的に付帯するものは含んでおりましたが、土木工事でもあるグラウンド等の外構整備費については、含まれておりませんでした。

今後は、教育長として責任を持って、適正な工事費の積算に努めるとともに、事業の全体像を適宜お示しし、事業を進めてまいります。